

A practical care guide for public health nurses responding to Article 24 notifications

前野, 有佳里

<https://doi.org/10.15017/1441071>

出版情報 : 九州大学, 2013, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : 全文ファイル公表済

論文審査の結果の要旨

保健師は地域において多様な保健活動を行っているが、近年、精神保健活動へのニーズが高くなってきている。精神保健福祉法第 24 条による警察官通報では、自傷他害の恐れのある急性の精神症状を呈している者等への対応を行うことが求められており、その対応には高度な専門的知識や技術が必要である。しかし、現状は知識・技術の教育や支援体制の整備不足の中で、保健師個人の力量で対応している。本研究は、第 24 条通報対応において保健師に必要とされるケアを評価するためのケア評価指標の開発を行い、その尺度の信頼性および妥当性を検討したものである。

本研究は評価指標開発のために 3 段階のプロセスを経ている。第 1 段階では第 24 条対応に熟練した保健師を対象とした面接調査を行い、それをもとに第 2 段階で第 24 条対応の経験があり保健師活動に関する研究を行っている大学教員、保健師への調査を通して指標原案の作成および修正をしている。第 3 段階では第 2 段階で作成したケア評価尺度を用いた横断式無記名自記式質問紙調査と探索的因子分析および検証的因子分析を行っている。調査は全国保健所 491 箇所の 842 名を対象として行い、有効回答 432 名（有効回答率 51.3%）を分析対象とした。統計解析には SPSS および SPSS Amos を用いて、探索的因子分析と検証的因子分析を行い、内的整合性および内容的妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性を調べた。

指標原案として作成した 55 項目のケア評価尺度の項目について、項目分析により 5 項目が削除され、最終的に 50 項目で因子分析が行われた。探索的因子分析により、31 項目 5 因子構造で明瞭な最適解を得た。保健師のケア実践行動指標として抽出された因子は、「危機状況の評価と対象者が落ち着きを取り戻すためのケア」「不安を軽減し、安全に措置診察に向かうためのケア」「保護を機会と捉え今後の介入の足がかりを作るケア」「対象者が家族の一員であり続けるためのケア」「措置診察の要否に必要な情報を見極めた客観的データの収集」と命名された。

信頼性と妥当性を検証したところ、指標全体及び下位因子のクロンバック係数より内的整合性による信頼性が確認された。妥当性に関しては、専門家による評価に基づく検討・修正によって内容的妥当性を確保した。探索的因子分析の結果、仮説モデルの検証的因子分析、経験年数別の指標得点の比較、さらに先行研究の結果も合わせて構成概念妥当性が確認された。また、指標と基準関連 3 項目との関連を検討した結果、一定程度の基準関連妥当性が確保されていた。

今回開発された第 24 条通報対応において保健師に必要とされるケアを評価するためのケア評価指標を用いることにより、保健師は自己の実践を評価し向上につなげることができる。また、これらの対応の検討を通して、保健師の精神保健活動に関する技術の蓄積や向上の可能性があり、この評価尺度の開発の意義は高い。

審査を行い、当該研究の位置づけ、方法論に関する知識や関連する研究業績、研究に関する考察を確認した結果より、本論文が博士（看護学）の学位に十分に値するものであると認めた。

平成 26 年 1 月 28 日

主査 中尾 久子

副査 栲木 晶子

大池 美也子